

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	p. 2
ア 北海道大学の現状把握・分析	p. 2
イ 工学部情報エレクトロニクス学科収容定員増の趣旨・目的等	p. 2
ウ 学生確保の見通し	p. 3
エ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p. 6
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	p. 7
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を 踏まえたものであることの客観的な根拠	p. 7

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 北海道大学の現状把握・分析

北海道大学（以下「本学」という。）では優秀な人材を幅広く受け入れるため、一般選抜（前期日程・後期日程）、フロンティア入試及び国際総合入試等の多様な選抜を実施し、1万名前後の志願者を安定的に確保している（表1）。また、一般選抜の志願倍率は、4倍程度で安定的に推移している（表2）。

本学では、平成23年度から、学部学科選択のミスマッチ解消や、減少が続いていた道外志願者数の増加を図ること、また、特色のある選抜方法により道内外の優秀な学生を確保すること等を狙いとし、一般選抜前期日程において、総合入試〔参考資料1〕を導入している。

総合入試は、文系及び理系（数学重点、物理重点、化学重点、生物重点、総合科学の各選抜群）の入学枠で受験し、本人の希望と1年次の成績によって学部学科に移行する制度（レイトスペシャライゼーション）であり、制度の導入以降、道外志願者数の増加及び道内外の優秀な学生の確保という点において、狙いどおりの効果が表れていると考えている。

また、令和3年度から総合型選抜を導入し、令和4年度入試からは、フロンティア入試に名称を変更し実施している。フロンティア入試の特色は、「高等学校によるコンピテンシー評価」結果を活用した総合型選抜であり、「大学入学者選抜における好事例選定委員会」が選定する令和3年度大学入学者選抜における好事例集に、「高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進」の区分で選定されるなど、特色ある入試を実施しているところである。

表1：大学全体の入学志願倍率

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
募集人員	2,485	2,485	2,485	2,485	2,485	2,478
志願者数	10,242	10,736	10,115	8,985	10,063	10,370
志願倍率	4.1	4.3	4.1	3.6	4.0	4.2

表2：一般選抜の入学志願倍率

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
募集人員	2,411	2,416	2,416	2,416	2,326	2,319
志願者数	9,849	10,341	9,752	8,621	9,516	9,808
志願倍率	4.1	4.3	4.0	3.6	4.1	4.2

イ 工学部情報エレクトロニクス学科収容定員増の趣旨・目的等

デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度人材の育成、輩出を担う大学の機能強化は

喫緊の課題である。社会経済情勢の変化、技術開発の動向については、生産性や利便性を飛躍的に高めるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が産業、教育、行政等のあらゆる分野において求められている。このような状況を踏まえ、教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）（令和4年5月10日）」において、デジタル人材並びにグリーン人材の不足、諸外国に比べて低い理工系への進学者等、及び大学・高等専門学校における成長分野への学部再編等の必要性が示されている。また、「統合イノベーション戦略2022（令和4年6月3日閣議決定）」において、知の基盤（研究力）と人材育成の強化や、社会課題解決のための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用の重要性が示されている。

工学部情報エレクトロニクス学科では、現代の高度情報化社会に必要なとされる、人間の知識・感覚・身体の特性及び社会性に配慮した、快適・便利で安心・安全な情報システムの基盤となる情報システム・情報ネットワーク並びにその中核となるコンピュータ・ソフトウェアとハードウェアについて学び、大規模なソフトウェアから生命や医療に係る情報科学まで幅広い知識と応用技術を修得し、次世代の情報科学及びエレクトロニクスを切り拓く人材を養成するための教育を行っている。

同学科から情報科学院修士課程に進学する学生は、直近5年間の平均で158.6名であり、平均進学率は、82.8%である〔参考資料2〕。また、同学院からは、情報通信業及び製造業（電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気・情報通信機械器具製造業）に、毎年、平均して、就職者の約64.5%（修士平均68.5%・博士後期平均37.5%）にあたる約120名（修士平均111名・博士後期平均9名）の学生を輩出〔参考資料3〕している。

このように、同学科の教育により、情報エレクトロニクスに関する深い理解・幅広い知識、論理的思考力を踏まえ、問題を発見し解決する力を獲得したうえで国内・国際的に幅広く活躍する優秀な学生を輩出してきた実績を踏まえ、引き続き、今後のデジタル・グリーン等の成長分野をけん引する人材確保に国立大学法人として応えることを目的として、同学科の入学定員を現在の180名から約30%に相当する50名を増員し、230名とすることとした。

ウ 学生確保の見通し

2年次進級時に工学部情報エレクトロニクス学科を志望する学生の母集団となる学生が受験する入試区分である総合入試（理系）の志願倍率は、2.7倍程度で安定的に推移している（表3）。

また、2年次進級時に同学科への配属が予定される学生が受験する学部別入試の志願倍率に目を向けると、学部別入試全体の平均志願倍率が、5倍程度で推移（表4）しているところ、同学科の学部別入試については、10倍程度と特に高い倍率で推移している（表5）。

加えて、総合入試制度においては、2年次進級時における学生の各学科の志望倍率と最低移行点が、各学科の学生確保の見通しと質を計る量となっているところ、同学科の平成28年度から令和5年度における一次振り分けの平均倍率は、3.3倍（平均定員：118名）であり、高い志望倍率を維持している。また、同学科に配属される学生の平成28年度から令和5年度の最低移行点は、平成28年度の平均最低移行点3.1（学科内最高値：3.2）から、令和5年度には3.5（学科内最高

値：3.7) に増加しており、総合入試理系の区分で入学した学生の中でも、特に優秀な学生を確保できている（表6）。

以上のことから、同学科の定員を50名増員しても、引き続き、安定的に質の高い学生を確保できると言える。

表3：総合入試（理系）の入学志願倍率

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
募集人員	1,027	1,027	1,027	1,027	994	994
志願者数	2,987	2,969	2,705	2,587	2,759	2,628
志願倍率	2.9	2.9	2.6	2.5	2.8	2.6

表4：学部別入試（全体平均）の入学志願倍率

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
募集人員	1,358	1,358	1,358	1,358	1,391	1,384
志願者数	6,852	7,485	7,007	6,070	6,941	7,383
志願倍率	5.0	5.5	5.2	4.5	5.0	5.3

表5：学部別入試（工学部情報エレクトロニクス学科）の入学志願倍率

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
募集人員	38	38	38	38	38	38
志願者数	355	352	335	391	324	486
志願倍率	9.3	9.3	8.8	10.3	8.5	12.8

表6：工学部情報エレクトロニクス学科の一次振り分けの倍率及び平均最低移行点

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	平均
一次振り分けの倍率	3.1	3.0	3.1	3.4	2.8	3.7	4.0	3.2	3.3
平均最低移行点	3.1	3.2	3.3	3.3	3.4	3.5	3.5	3.5	

また、中長期的な学生確保の見通しについて、厚生労働省所管の国立社会保障・人口問題研究所が平成27年の国勢調査を基に推計した「日本の地域別将来推計人口（最新版）」及び文部科学省「大学への進学者数の将来推計について」を用いて分析する。

本学には、ほぼ毎年47都道府県から学生（留学生を除く）が入学しているが、入学者の出身地域の60%（令和5年度入試）を占める上位5都道府県（北海道、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府）の傾向を分析することにより、おおよその見通しが把握できることから、これら5道都県の大学進学者数推移を検討する。なお、分析に用いる数値はあくまでも将来の推計値であり、特に大学進学率は今後の社会情勢等によって大きく変化することも想定されることから、正確性が担保できると考えられる令和12（2030）年までの数値を用いることとする。

始めに、大学進学適齢人口を含む15～19歳の人口推移を確認すると、表7のとおりとなる。次いで、上記5都道府県大学進学率推移を確認すると、表8のとおりである。表7及び表8の数値を掛け合わせ、大学進学者数の推移を予測したものが表9となる。

表7：15～19歳推計人口

※各セル 上段：15～19歳推計人口 下段：2020年人口を基準とした際の各年の推計人口割合

	北海道	東京都	神奈川県	愛知県	大阪府
R2 (2020) 年	217,852	552,167	418,685	359,473	402,489
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
R7 (2025) 年	200,850	557,895	402,909	347,856	373,806
	92.2	101.0	96.2	96.8	92.9
R12 (2030) 年	186,685	564,674	380,774	329,519	346,614
	85.7	102.3	90.9	91.7	86.1

出展：「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに一部加工

表8：大学進学率

※各セル 上段：大学進学率 下段：2020年を基準とした際の各年の推計大学進学率

	北海道	東京都	神奈川県	愛知県	大阪府
R2 (2020) 年	46.5	72.8	54.6	53.4	56.6
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
R7 (2025) 年	51.8	72.8	55.0	54.4	58.4
	111.4	100.0	100.7	101.9	103.2
R12 (2030) 年	54.4	72.8	55.4	54.4	59.5
	117.0	100.0	101.5	101.9	105.1

出展：「大学への進学者数の将来推計について」（文部科学省）をもとに一部加工

表9：大学進学者数の推移予測指数

※各セル 上段：15～19歳推計人口×大学進学率 下段：2020年基準とした際の各年の推計進学者割合

	北海道	東京都	神奈川県	愛知県	大阪府	合計
R2 (2020) 年	101,301	401,978	228,602	191,959	227,809	1,151,649
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
R7 (2025) 年	104,040	406,148	221,600	189,234	218,303	1,139,325
	102.7	101.0	96.9	98.6	95.8	98.9
R12 (2030) 年	101,557	411,083	210,949	179,258	206,235	1,109,082
	100.3	102.3	92.3	93.4	90.5	96.3

令和2年（2020年）の大学進学者数を基準とした場合の令和12年（2030年）の数値は、北海

道が 100.3、東京都が 102.3、神奈川県が 92.3、愛知県 93.4、大阪府 90.5 となる。これら 5 都道府県の合計値は 96.3 であり、3.7%のわずかな減少に留まる。

以上のとおり、大学進学者数の減少率は小さいこと、アで述べたとおり、同学科を志望する学生が受験する総合入試（理系）及び学部別入試（工学部情報エレクトロニクス学科）の入学志願倍率は、表 3 及び表 5 のとおり約 2.5 から 3.0 倍及び 8.5 から 13.0 倍程度で推移していることから、今後も本学を志願する学生を安定して確保することが期待でき、同学科の定員を 50 名増員した後も定員を満たすことは、十分に可能と判断できる。

エ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

本学及び工学部の教育の特色や魅力について高校生及び保護者、高等学校の教員等に対し広く周知するため、以下のとおり（表 10）、様々な機会を設けている。

表 10：学生確保に向けた取組

オープンキャンパス	<p>多くの高校生が参加できるようにするため、毎年夏休み期間中に開催している。主な内容は「学部説明」、「体験講義」、「先輩と話そう」、「入試相談」等の「自由参加プログラム」と研究室体験ができる「高校生限定プログラム」。なお、令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、受入人数を半数に制限していたが、令和 5 年度は、コロナ禍前の受入人数に戻すため、より多くの来場が見込まれる。</p> <p>（参考）令和 4 年度オープンキャンパス（工学部）の参加者</p> <p>自由参加プログラム 519 名</p> <p>高校生限定プログラム 226 名</p>
進学相談会	<p>大学全体として実施する進学相談会は、オンライン形式で行うことで遠隔地の高校生も参加することが可能としている。主な内容はグループや個別での進学相談や現役北大生への質問など。</p> <p>（参考）令和 4 年度進学相談会における工学部への参加者 41 名</p> <p>これに加えて、本学教職員が北海道内の高等学校を訪問する形での進学相談会を実施し、道内出身の学生確保に向けた広報活動も行っている。</p>
出前講義	<p>札幌市内の高等学校に教員を派遣して出張講義を行い、高校生に大学での学びのイメージを掴んでもらうとともに、工学部の説明等も行っている。</p> <p>令和 4 年度は 2 校で実施（札幌藻岩高等学校と札幌月寒高等学校）</p>
みらい IT 人材	<p>北海道・札幌市・本学・(株)ニトリホールディングスによる連携協定を締結し、小中学生・高校生など将来を担う若年層に向けた IT 人材育成に関する活動を行っている。</p> <p>（参考）令和 4 年度 札幌市共催プログラミング体験イベント「ジュニ</p>

	ア・プログラミング・ワールド 2022」 参加者数 約 3,000 名
情報科学体感型イベント	公益財団法人KDDI財団との共催でAI、ロボット等の体験型体験型情報科学教育を中学生に提供した。 (参考) 令和元年度「AIとデータサイエンスを知って楽しむ講義×体験イベント」 延べ参加者数 102名
入学後の学部・学科紹介	総合入試で入学した1年次を対象に4月・9月・2月に学部・学科紹介を実施している。工学部特設サイトを作成し、各学科(コース)のオンデマンド動画による紹介、対面形式での研究室説明会に加え、先輩学生による相談会等を実施し、学科の魅力を伝え、優秀な学生の獲得に努めている。
その他	令和2年度科学技術人材育成費補助事業「データ関連人材育成プログラム(D-DRIVE)」である中等生徒が取り組む探究活動の成果を発表する北海道教育委員会「S-TEAM 教育推進事業」や女子学生比率向上に向け、本学のダイバーシティ・インクルージョン推進本部で実施している「サイエンスフェスタ」等のイベントにおいて広報活動を引き続き行う予定。

以上の取組等から、工学部情報エレクトロニクス学科の定員を50名増員したとしても、学生確保は十分に達成できる見込みである。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

本学工学部は、人類社会の将来の発展のための基盤である科学技術に関する幅広い知識と教養を教授することにより、工学の多様化に対応できる基礎的素養及び技術者又は研究者として必要な専門的知識を有し、技術開発に係る課題に的確に対応できる人材を育成することを目的としている。現代の高度情報社会においては、人間の知識・感覚・身体の特性及び社会性に配慮した、快適・便利で安全・安心な情報システムを、科学の発展と社会の変化に合わせて、短期間で効率良く確実に実現することが要求されている。工学部情報エレクトロニクス学科は、そのような要求に応える情報ネットワークと情報システム並びにその中核となるコンピュータ・ソフトウェアとハードウェアの研究・技術開発を行う人材の育成を目的としている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

現状の世界の人材ニーズは、IT企業だけでなくデジタル技術を活用してDXを牽引する企業でも活躍できるデジタル人材であり、国内ではそのような人材が益々不足している。

「IT人材白書2020」^I及び「DX白書2023」^{II}によれば、デジタル人材が「大幅に不足している」と回答した企業は、平成27（2015）年度調査の20.5%から年々増加し、令和4（2022）年度調査では49.6%に急増した。

工学部情報エレクトロニクス学科の学生の多くは本学の大学院情報科学院に進学する（直近5年間の平均進学率：約82.8%）が、近年の民間企業の採用活動の早期化により大学を經由しないオンライン求人が顕著に増加しているにも関わらず、情報科学院に直接届く求人数は大きく変化していない（令和3年度：389件、令和4年度：383件、令和5年度：366件）。このことは、同学科（情報科学院）の輩出人材に対する民間企業の高い需要を示している（令和4年度の同学院の修士・博士の就職率はそれぞれ97.7%・85.5%）。

「北海道ITレポート2022」^{III}によれば、北海道のIT・DX銘柄企業の約8割の事業所においてシステムエンジニアが不足しており、地域のデジタル人材需要は、今後も増加する見込みである。さらに、ラピダス社の千歳市工場建設に伴い、国際半導体研究開発機関（imec：Interuniversity Microelectronics Centre）も北海道への進出を表明しており、北海道は、今後、日本のシリコンバレーとなることが期待されていることから、同学科が輩出するDX推進（情報）スキルと半導体スキルの両素養を持つ高度人材の地域需要が見込まれている^{IV} ^V。

以上のように、①で述べた人材の養成に関する目的、その他の研究教育的な目的は、社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

^I 「IT人材白書2020」（独立行政法人情報処理推進機構）p.33，図表2-1-1
URL：<https://www.ipa.go.jp/archive/publish/hjuojm0000007e6n-att/000085255.pdf>

^{II} 「DX白書2023」（独立行政法人情報処理推進機構）p.21，図表1-21
URL：<https://www.ipa.go.jp/archive/publish/hjuojm0000007e6n-att/000085255.pdf>

^{III} 「北海道ITレポート2022」（一般社団法人北海道IT推進協会）p.10，図表14
URL：<https://www.hicta.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/f64e6ff4058983911fede1687d4dbcb1.pdf>

^{IV} 「ラピダス社長「北海道バレー構想進める」千歳市で説明会」（日本経済新聞社 2023年5月22日配信記事）
URL：<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0FC2254Z0S3A520C2000000/>

^V 「デジタル推進人材育成の取組について」（経済産業省商務情報政策局（令和4年12月26日））p.3,13
URL：https://www.mext.go.jp/content/20221223-mxt_senmon01-000026605_03.pdf

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

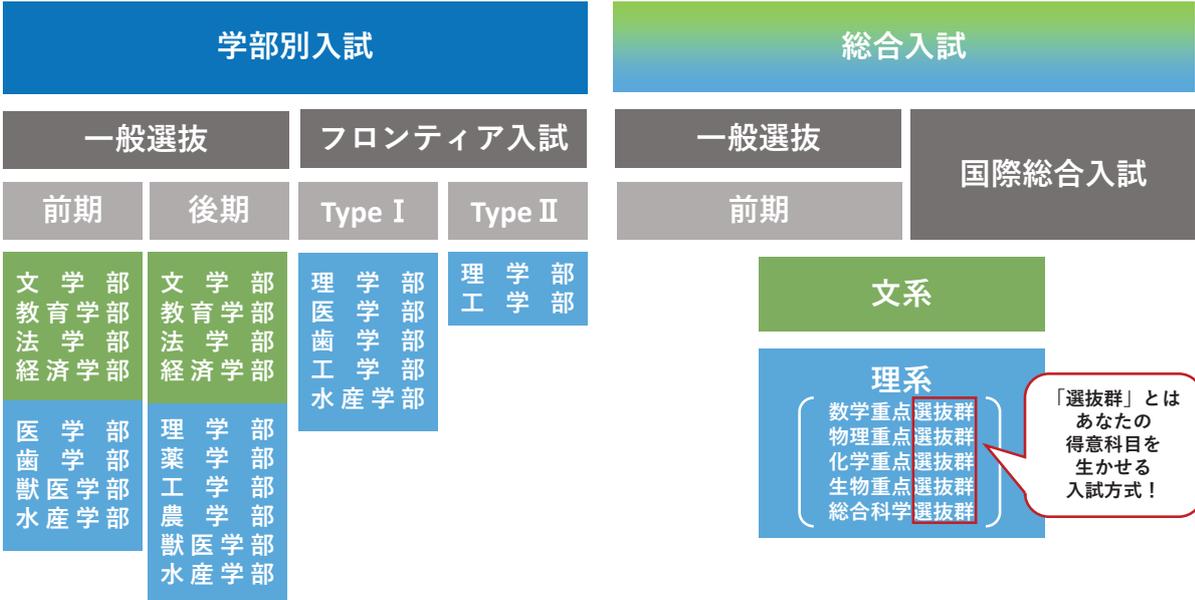
参考資料1 北海道大学総合入試案内

参考資料2 工学部情報エレクトロニクス学科から情報科学院（研究科）に進学した学生数の推移
（平成30年度～令和4年度）

参考資料3 情報科学院（修士課程・博士後期課程）の情報関連企業への就職状況
（平成30年度～令和4年度）



北海道大学の主な選抜方法



学部や学科等を決めて受験する

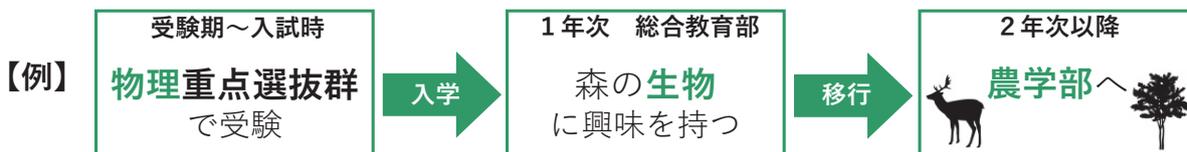
大きな括りで受験する

総合入試の試験科目と配点

	大学入学共通テスト	本学個別学力検査等																																			
文系	5(6)教科8科目(300点) 国語 (60点) 地理歴史・公民 (80点) 数学 2科目 (60点) 理科 2科目 (40点) 外国語 (60点)	合計 450点 国語 (150点) 地理歴史又は数学 (150点) 外国語 (150点)																																			
	理系	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選抜群</th> <th>教科・科目</th> <th>数 学</th> <th>主要理科</th> <th>その他の理科</th> <th>外国語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数学重点選抜群</td> <td></td> <td>200点</td> <td colspan="2">(2科目) 100点(50点、50点)</td> <td>150点</td> </tr> <tr> <td>物理重点選抜群</td> <td></td> <td>150点</td> <td>物理100点</td> <td>50点</td> <td>150点</td> </tr> <tr> <td>化学重点選抜群</td> <td></td> <td>150点</td> <td>化学100点</td> <td>50点</td> <td>150点</td> </tr> <tr> <td>生物重点選抜群</td> <td></td> <td>150点</td> <td>生物100点</td> <td>50点</td> <td>150点</td> </tr> <tr> <td>総合科学選抜群</td> <td></td> <td>150点</td> <td colspan="2">(2科目) 150点(75点、75点)</td> <td>150点</td> </tr> </tbody> </table>	選抜群	教科・科目	数 学	主要理科	その他の理科	外国語	数学重点選抜群		200点	(2科目) 100点(50点、50点)		150点	物理重点選抜群		150点	物理100点	50点	150点	化学重点選抜群		150点	化学100点	50点	150点	生物重点選抜群		150点	生物100点	50点	150点	総合科学選抜群		150点	(2科目) 150点(75点、75点)	
選抜群	教科・科目	数 学	主要理科	その他の理科	外国語																																
数学重点選抜群		200点	(2科目) 100点(50点、50点)		150点																																
物理重点選抜群		150点	物理100点	50点	150点																																
化学重点選抜群		150点	化学100点	50点	150点																																
生物重点選抜群		150点	生物100点	50点	150点																																
総合科学選抜群		150点	(2科目) 150点(75点、75点)		150点																																

理系の「選抜群」とは、特定の科目により高い配点を行うことで得意科目を活かすことができる入試方式

受験時に選択した選抜群で入学後の学部・学科選択の幅が狭くなることはありません。

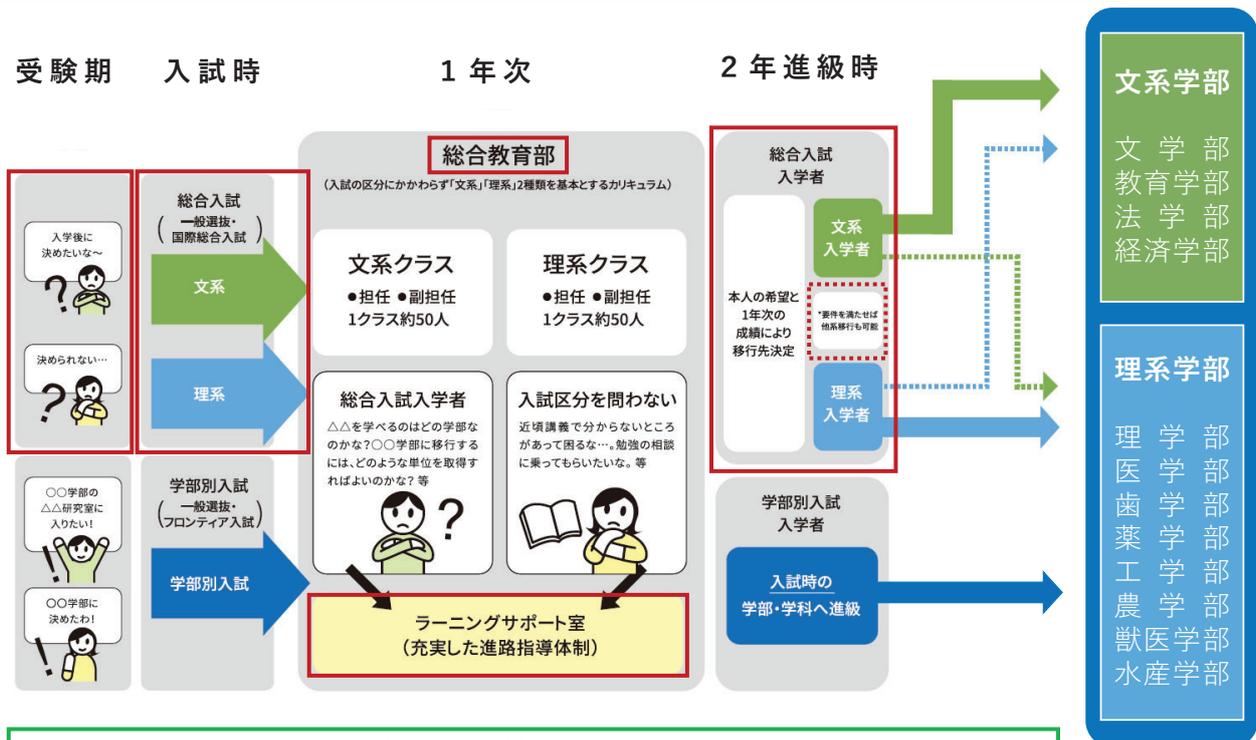


総合入試の魅力

- 1 未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消
- 2 学問分野の細分化・融合化への対応
- 3 初年次教育における共通教育の充実

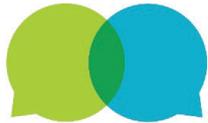
- 1 未成熟な学部・学科選択によるミスマッチの解消
- 2 学問分野の細分化・融合化への対応
- 3 初年次教育における共通教育の充実

総合入試入学者の学部・学科移行の流れ



総合入試の特色のひとつは
進みたい学部をじっくり考えることができる点!

充実した学修支援体制



ラーニングサポートオフィス
Learning Support Office



学生一人一人が
生きがいや好きなことを見つけ、
自ら学んでいけるように支援します

学修設計支援

アカデミック・マップ



研究キーワード/ 各学部の包括的情報

学修設計相談



移行・進路についての相談・助言

学習サポート



大学院生チューターによる個別学習相談

学習支援

学習教材作成



自学自習の姿勢を伸ばす教材開発

LSOセミナー



スタディ・スキルや英会話のセミナー・イベント開催

データ分析

支援や制度の検証・改善



アンケートやサポートデータの分析・フィードバック

学部相談員

クラス担任

学生相談室

ピアサポート

附属図書館

〇〇について学ぶにはどの
学部へ行けばよい?



レポートはどうやって
書いたらいいんだろう

北海道大学の12学部の教育・研究

ラーニングサポート室で制作している『アカデミック・マップ』をもとに
本学で行われている教育・研究を俯瞰できるようにしたイメージ図



テーマ	人と文化	人と社会	社会システム	数物・天体	化学	生物	医療	電子・機械	情報	原子とエネルギー	土木・建築	環境	生物生産	食糧	暮らしと健康
文学部	歴史・文化	言語学	文学												
教育学部	教育学	心理学	社会学												
法学部	政治学	社会学	法学												
経済学部				経済学											
理学部				数学	物理学	化学	生物								
医学部							医学								
歯学部							歯学								
薬学部							薬学								
工学部								電子・機械	情報	原子とエネルギー	土木・建築				
農学部												環境	生物生産	食糧	
獣医学部													生物生産		
水産学部													生物生産		

学部を横断した教育・研究が行われています

学問分野の細分化・融合化への対応

生物について
学ぶには
どの学部がいいのかな？



北海道大学で**生物**について学べる学部

文学部	理学部	工学部
教育学部	医学部	農学部
 	歯学部	獣医学部
	薬学部	水産学部

学問分野の細分化・融合化

同じ学部でも学科によって
学ぶ内容が大きく異なる

異なる学部でも
同じような内容が学べる

1年次に上記のことを確認した上で移行する学部・学科の検討が可能

夢をかなえるための将来の選択肢を広げることができる！

総合入試の魅力

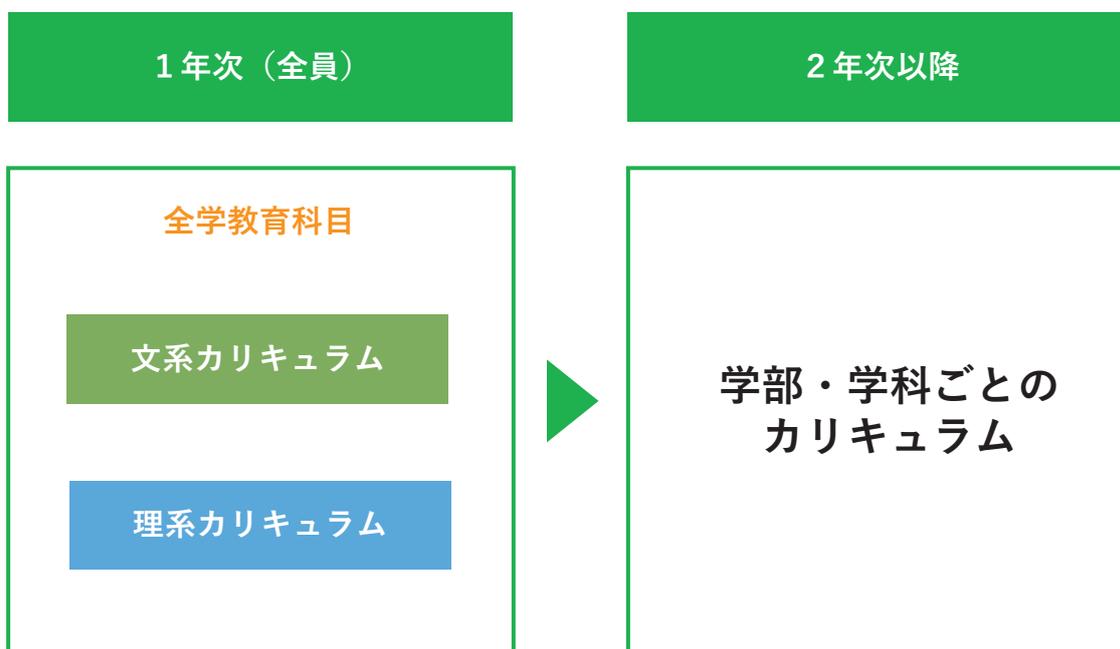
1 未成熟な学部・学科選択による
ミスマッチの解消

2 学問分野の細分化・融合化への対応

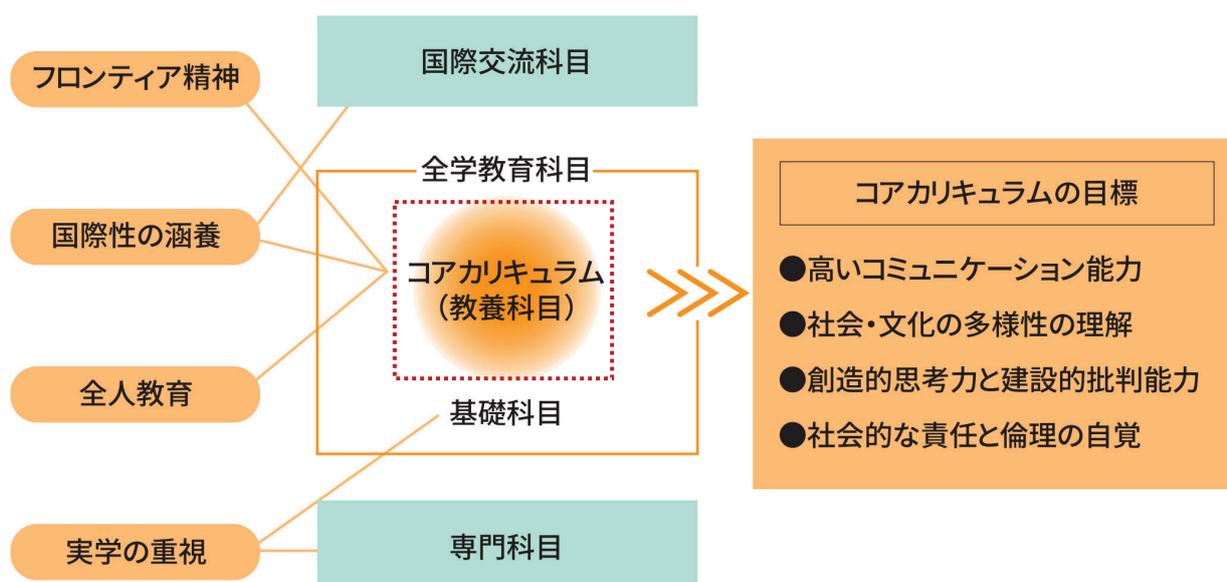
3 初年次教育における共通教育の充実

初年次教育における共通教育の充実

1年次は、全員総合教育部に所属し、全学教育科目を履修します。



充実した教養教育・基礎教育



充実した教養教育・基礎教育

コアカリキュラム (教養科目)

一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)

コミュニケーション能力を養う

少人数のゼミナール形式、牧場、練習船等を利用した合宿形式の演習も含む。

約170科目

総合科目

生き生きとした学際的な学問の発展

複数の学問分野を融合した統合講義。
1テーマにつき複数の教員が講義を行うことも。

約60科目

主題別科目

最良の専門家による最良の非専門(教養)教育

哲学、歴史、芸術、文学、法学、科学、技術等

約170科目

外国語科目

世界とのつながりを構築する

英語を基本とし、初習外国語を履修。
演習では第三、第四外国語の履修も可能。

約720科目

外国語演習

共通科目

共通性の高い基礎分野

体育学、情報学、統計学、インターンシップ(キャリアに関連した就業体験)

約110科目

基礎科目

(文系基礎・理系基礎・自然科学実験等)

専門教育の基礎となる科目。主に理系基礎科目と文系基礎科目。実験も行われる。

約450科目

自立して学び続けるための「**コア(核)**」を育てる「**コアカリキュラム**」

北海道の環境を活かしたフィールド体験型学習

フレッシュマンセミナーの中で開講：

クラーク博士の「自然に学べ」の教えを今日に生かした科目

日高の附属牧場での合宿

乗馬や家畜の世話等の牧場体験を通して人材育成・人間教育を行う



道北の研究林での実習

山スキーや流水観測等を体験し北の自然と人々の暮らしを学び自らの視野を広げる

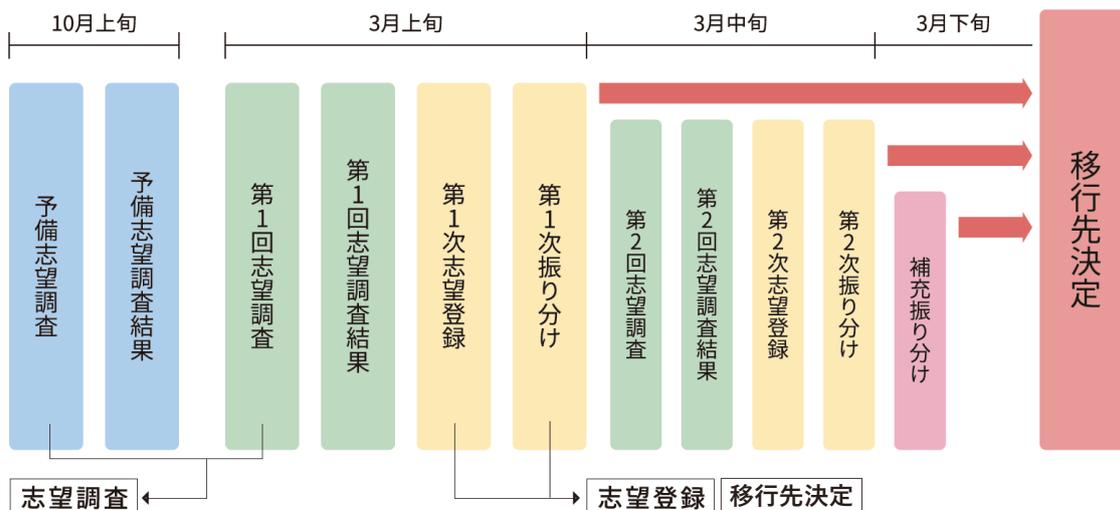


練習船上での実習

漁船、イカ釣り、船のデッキ磨き等練習船上での希少な体験を通して人間性を高める



学部・学科移行の基本的な流れ



10月上旬と3月に実施。

それぞれの時点での各学部・学科ごとの志望者数を調査し、その結果を公表。
自分の成績順位を確認することができる。

移行先は、1年次に修得した単位の成績評価に基づいて算出される「移行点」が上位の学生から順番に決定。

第1志望の移行先が定員に達した場合は、第2志望、第3志望の順に決定。第1次志望登録に基づき、各移行先の定員の約8割が決定。この段階で決定しなかった学生を対象に第2回志望調査、第2次志望登録と続く。

みなさまを心よりお待ちしております。

工学部情報エレクトロニクス学科から情報科学院（研究科）修士課程に進学した 学生数の推移

	工学部情報エレクトロニクス 学科の学生数	情報科学院（研究科） 修士課程に進学した学生数	進学率
H30年度	191	163	85.3%
R1年度	193	162	83.9%
R2年度	187	155	82.9%
R3年度	192	147	76.6%
R4年度	195	166	85.1%
平均	191.6	158.6	82.8%

※R1年度から「情報科学院」設置

情報科学院（修士課程・博士後期課程）の情報関連企業への就職状況
（H30年度～R4年度修了生）

		修士課程				博士後期課程			
		就職者数	左のうち			就職者数	左のうち		
			電子回路製造業	電子部品・デバイス・電気器具製造業	情報通信機械		電子回路製造業	電子部品・デバイス・電気器具製造業	情報通信機械
H30年度修了生	学院	0	0	0	0	0	0	0	
	研究科	156	6	27	67	19	2	2	5
R1年度修了生	学院	0	0	0	0	0	0	0	
	研究科	170	14	28	68	23	1	4	1
R2年度修了生	学院	159	5	34	69	5	0	1	0
	研究科	12	1	2	7	23	1	2	3
R3年度修了生	学院	160	14	25	77	13	4	2	2
	研究科	1	0	0	1	10	1	0	1
R4年度修了生	学院	152	10	20	81	23	3	5	4
	研究科	1	0	1	0	2	0	0	1
平均		162.2	10	27.4	74	23.6	2.4	3.2	3.4